

鱗葉は淡帶赤褐色、莖は極く淡い褐色を帶びる程度である。シロテンマ(一名ヒメテンマ)の学名は南瀬戸産及び久内清孝氏採集の相模大磯産の植物について *Gastrodia elata* Bl. var. *pallens* Kitagawa がある。北川政夫氏によると“莖は青灰色を帶び、花冠は白色,” “Caulis dilute fuscescens ceterum pallide caesius..... Corolla lactea \pm caesio-tincta....”であるが、この場合の灰青色というのはアオテンマの藍緑色を意味しないのである。シロテンマは藍緑色や褐色乃至黒褐色の色素を含まず、灰黄色のカロチノイドらしい色素も淡い形で、小生はアオテンマと同様に品種級の学名を与える方がよいと思う。シロテンマはアオテンマと異つて、全体が小形貧弱で花数も少いものが多い。(Fig. 5 参照)

Gastrodia elata Bl. forma *pallens*
(Kitagawa) Tuyama comb. nov.

G. elata Bl. var. *pallens* Kitagawa,
Lineam. Fl. Manshur. p. 151 (1939).

G. gracilis Makino et auct. plur.
japon., non Blume.

終りに御教示を頂いた久内清孝、原寛、田川基二、林孝三、佐々木一郎の諸氏及び静嘉堂文庫の丸山季夫氏、標本を貸与された野富牧太郎先生、解剖図を貸与された故福山伯明氏に御礼申し上げる。

□メリル博士の逝去 (原 寛)

アジア南部植物の世界的権威であるハーバード大学名誉教授 Elmer Drew Merrill 博士は、2月25日米国マサチューセッツ州ジャマイカブレインの病院で逝去された。享年80才。博士は1899-1902米国農務省、1902-1923フィリピン、マニラ、1923-1930カリブオルニア大学農学部、1930-1935ニューヨーク植物園、1935年以後ハーバード大学に勤務され、その精力的な仕事振り、優れた手腕は各地で高く評価され、アジア南部植物に関する大きな研究は学界に大きな貢献をした事は今更述べるまでもない。最後の著書となつた *The Botany of Cook's Voyage* (1954) に示された円熟した該博な智識は、到底他の真似のできない所である。1954年秋御会いした時は既に自宅で病を養つて居られたがそれでも英、独、仏、ラテン、スペイン語等を解される博士は自分はまだ語学の智識が足りないからもつと面白い仕事があるができないと語つて居られたのも博士の面目の一端を偲ばせる。

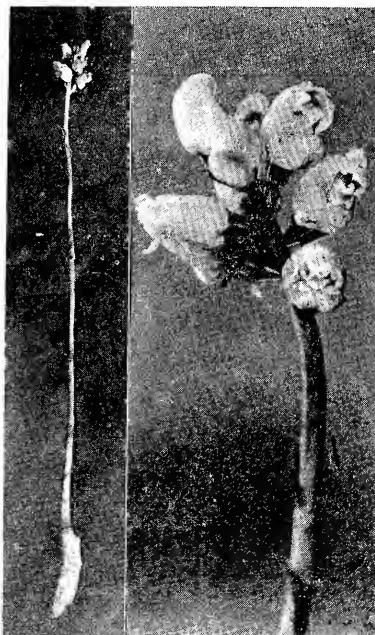


Fig. 5. One of the type-specimen of *Gastrodia elata* Bl. f. *pallens* Kitagawa, collected by K. Hisauchi at Komayama, Oiso, Sagami, Jul. 3, 1927. A. whole plant. B. inflorescence of the same, slightly magnified.